

北海道浮魚ニュース

平成 12 (2000) 年度 16 号 (通巻 No.86)

2000 年 9 月 13 日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

道南太平洋スルメイカ南下期調査結果

金星丸 (函館水試調査船) により行われたスルメイカ調査結果をお知らせします。

調査期間 : 2000 年 8 月 29 日 ~ 9 月 7 日

調査海域 : 太平洋 (津軽海峡 ~ 襟裳岬以西海域)

『平均 CPUE は前年を上回る . 函館沖の魚体は小型』

- 1 . 調査海域の表面水温は 22 ~ 25 台と前年 (22 ~ 25 台) と同様でした . また , 50m 層の水温も調査海域のほとんどで前年とほぼ同程度でしたが , 浦河沖の St.15 では前年よりも 5 低く , 表面との温度差はかなり大きくなっていました (図 1,2) .
- 2 . CPUE^{*1} は , 0.1 ~ 20.2 尾 (前年 0.1 ~ 8.7 尾) の範囲にあり , 下北沖の St.8 を除いて , その他の調査海域では前年よりも高い値でした (図 1,2) . また , 調査点全体の平均 CPUE は 9.7 尾 (前年 3.2 尾) であり , 不漁年であった前年を上回りました (表 1) .
- 3 . スルメイカ外套長 (胴長) の範囲は , 調査点全体で 11 ~ 28cm (前年 14 ~ 28cm) でした . また , 外套長モード^{*2} の範囲は 15 ~ 21cm (前年 20 ~ 22cm) であり , 南茅部沖の St.1 と浦河沖の St.15 ではほぼ前年並みの大きさでしたが , 函館沖の St.16 では例年に比べ 4 ~ 5cm 以上も小型でした (図 1,2 , 表 1) .

(文責 : 函館水試資源管理部)

直通電話 0138-57-5997

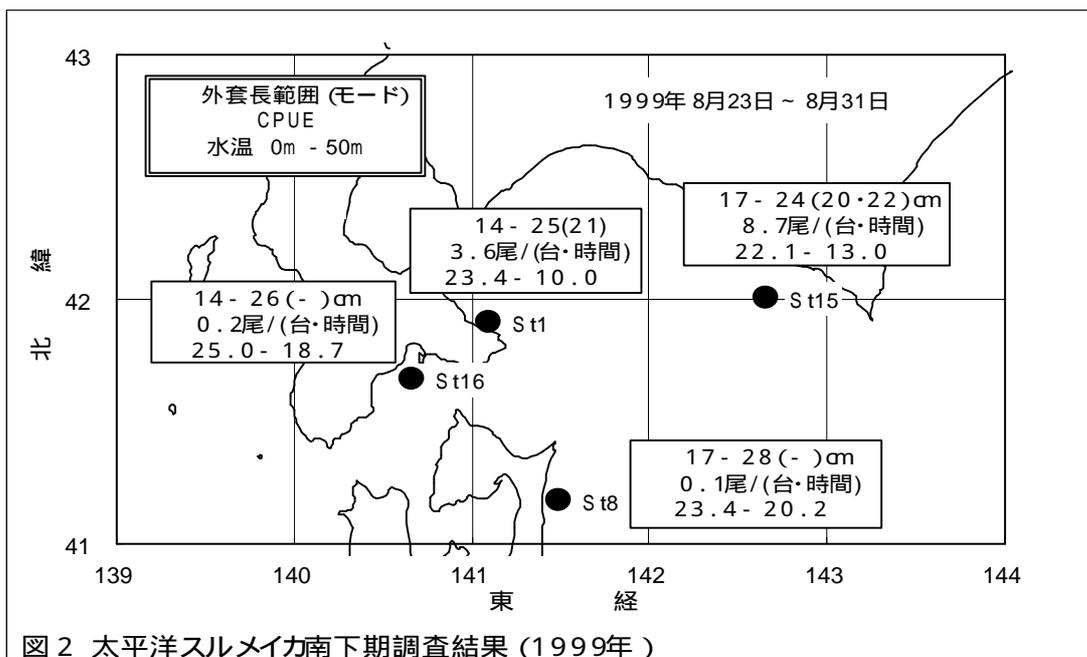
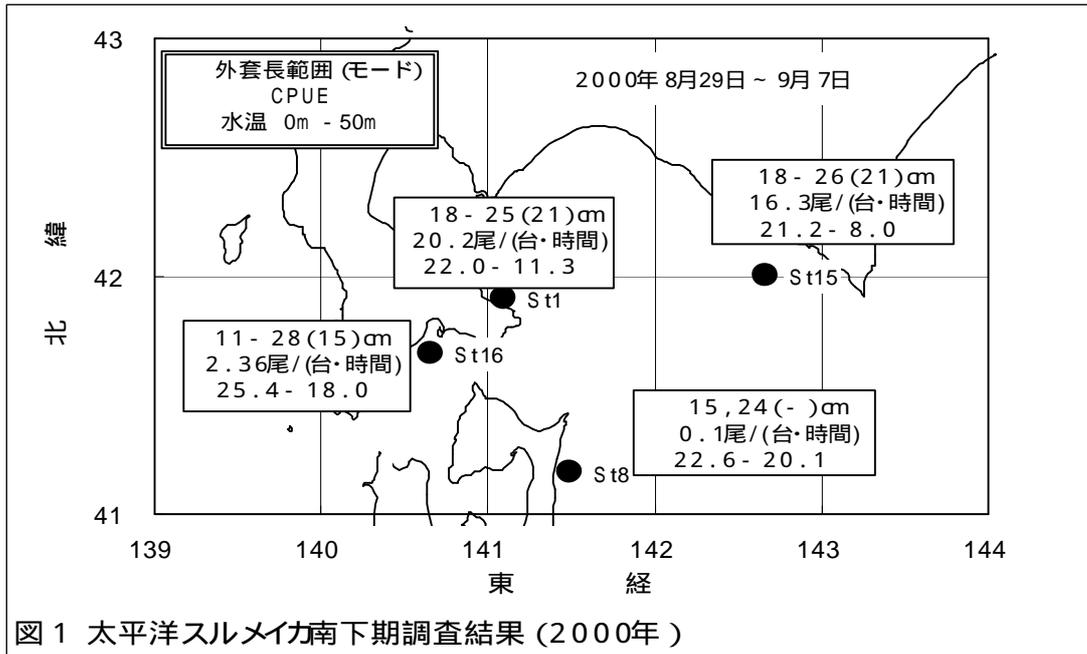


表 1 道南太平洋スルメイカ南下期調査時のCPUEと外套長の経年変化

	1996 (H8)	1997 (H9)	1998 (H10)	1999 (H11)	2000 (H12)
4調査点の平均CPUE (尾/台・時間)*1	13.9	17.3	13.6	3.2	9.7
外套長の範囲 (cm)	11 - 31	12 - 27	14 - 28	14 - 28	11 - 28
外套長モードの範囲 (cm)*2	21 - 23	21 - 23	18 - 21	20 - 22	15 - 21
海面水温 ()	19.3-21.4	17.7-23.4	19.8-22.3	22.1-25.0	22.0-25.4
50m層水温 ()	9.6-16.3	9.7-18.7	11.6-16.0	10.0-20.2	8.0-20.1

* 1 CPUE : 2連式自動イカ釣機 1台 1時間当たりの漁獲尾数 . この値が大きいほどイカが多く分布している .
* 2 外套長モード : 一番多く漁獲されたスルメイカの胴 (外套膜) の長さ .